

### 教育目標

- げんきな子
- よくかんがえる子
- なかよくする子

おひさまきらきら えがおいっぱい なんざんようちえん

港区立南山幼稚園 NANZAN Kindergarten



# 12月園だより

〒106-0046

港区元麻布 3-8-15

平成30年11月29日

## 【季節の飾りを作りました】

### 4歳児

はさみでツリーの形に切り、野菜のスタンプで飾りました。



### 5歳児

サツマイモのつるをリースにして、いろいろな木の実をつけて飾りました。



## 言葉による伝え合い

園長 こくぼ とくこ 小久保 篤子

本園の子ども同士の会話の中には、日本語以外の言語が飛び交います。南山は今、そのような環境が当たり前の園生活なので、日本語と日本語以外の言語、その間をとりもつ子ども同士のコミュニケーションが見ている実に面白いなと思っています。

子どもたちは、私が英語を話せないと理解しているので、5歳児に入ると、通訳役の子どもが、「〇〇って言っているんだよ」と私を補助する姿や、私が日本語で話していると、「What does she say?」（今、園長先生は何と言ったの？）などと、通訳役の子どもを介して、言葉の意味を理解しようとする姿が自然に見られます。3歳児では、入園当初は、無口でじっと固まって聞いていた子どもが、遊びや生活を共にしてきたことで、覚えた日本語を使って、例えば、昼食時に弁当箱を開けて「先生！Big おにぎり！」など、自分が伝えたいことを話してきます。

日本語や日本の生活習慣、行動様式に対する戸惑いや不安がある子どもたちも、数ヶ月みんなで園生活を過ごしてきたことで、いつの間にか日本語を使うようになってきました。もちろん個人差はありますが、最初は、教師の手をひいたり、目や表情で伝えたり、体全体を使って表現したりして、自分がしてほしいことを訴えてきます。そこで教師は、子どもの気持ちを温かく受け止め、生活に沿った言葉の意味や使い方を、表情や態度を交えて、その都度具体的にわかるように伝えていくことで、子どもは生活に必要な言葉を覚えていきます。その土台には、安心して言葉を交わせる教師の温かい雰囲気や信頼関係があつてこそと考えています。

子どもたちが日々使う言葉は、ご家庭での家族の会話、話し方、言い回しなどもすべて影響していきます。日々、使う言葉ですから、私たち大人自身も気持ちの良い言葉を使えるようにしたいものです。

1年を振り返る時期となりました。今年も、本園の教育活動において、保護者の皆様、地域の皆様にはたくさんのご協力を賜り、本当にありがとうございました。新しい年も、教育活動の充実に努めてまいります。

